

ドール

無知な人造乙女たち

— エイダ編 2 —

DOJIN
R18
ADULT ONLY

◡ ◡ 主な登場人物 ◡ ◡



さえだ
小枝

SF作品が好きな
冴えない青年



エイダ

感情表現は乏しい
タイプ。
常に勉強して向上
しようと考えている



マザー

エイダ達の
開発者



ひびや
日々家

さえだ
小枝の友人



イブ

エイダと同じ
アンドロイド

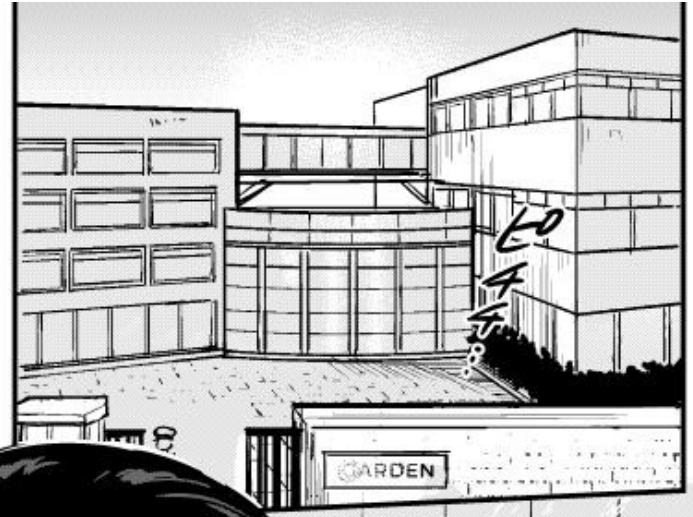
◡ ◡ これまでのあらすじ ◡ ◡

AIやロボット開発を行う会社「ガーデン」から、学習目的で人間の通う学校に送り込まれたアンドロイドのエイダ。

彼女には性的知識が無く、その無知さ故にクラスメイトのひびや さえだ 日々家と小枝に犯されてしまう。

小枝は、エイダへの関心が強く「これからは僕がエイダちゃんの体を守る」と彼女に告げる。

しかし、その言葉が身勝手に欲にまみれたものであることを、エイダは知らない。





でも今は
1人だから...

...指でも同じように
気持ちよくなれる？



小枝くんや
日々家くんの性器
挿れやすくする分泌液...

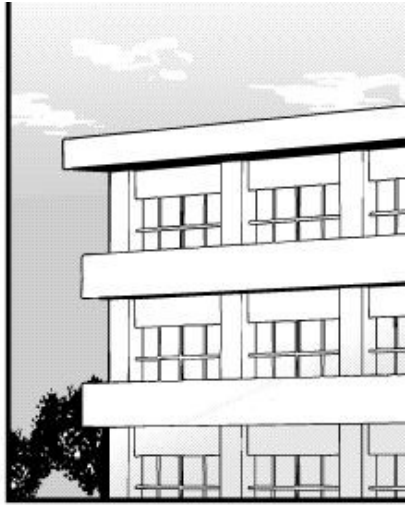


一番気持ちよく
なるときは『イク』
って言うんだ

またアレに
なりたい...♡
すごく気持ち
いいやつ...♡









その日から

僕はエイダちゃんを守ってあげるようになった



彼女は人間より能力が高い分誤解を受けやすく

初日から孤立してしまっていた

そんなの可哀想だし、

なにより彼女が人間のことを学ぶ機会が減ってしまう

そこを僕が仲介してあげた



でもクラスメイトと接する機会が増えれば

日々家のように彼女を道具として扱おうとする奴らも出てくるだろう

だから僕は常に側にいて見守ったんだ



小枝くんのおかげで他の生徒と話す機会が増えたよ

それは良かった



これでもっと人間たちのことを勉強ができる

マザーも喜んでくれるはず







うあっ...
そんなに激しく

しっかり
根本まで
啜えこんで...



上手なものも
完璧だよ...

さっきより
上手になった？



そう
よかつひゃ...



彼女は
自分の行為の意味を
未だ正しく理解
できていないんだ...

...でもこんなに
いやらしい事を
しているのに



僕はキミに
もつと夢中に
なっちゃうじゃないか...

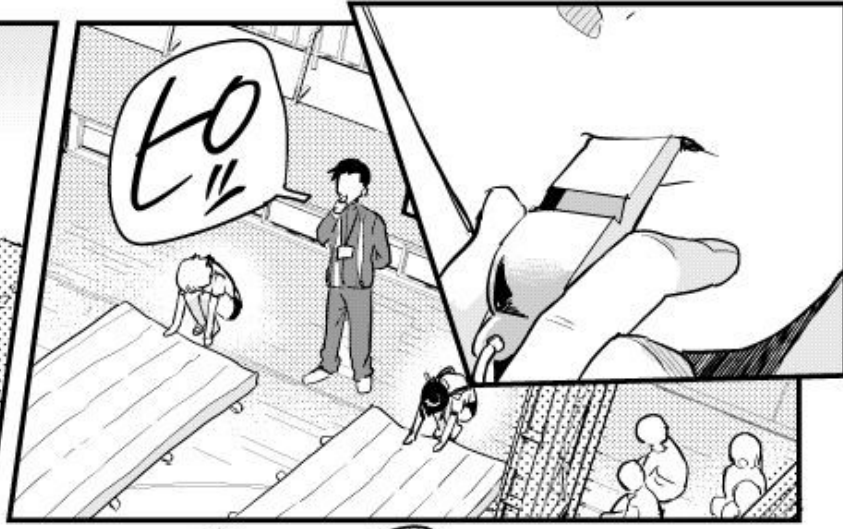


こんなこと
までされたら



なにあれ

すげー



ロ!!



機械なら
何でも出来て
当たり前じゃん

ねー



おーすげー
あのロボット

よくわからん
華麗な技
決めてる

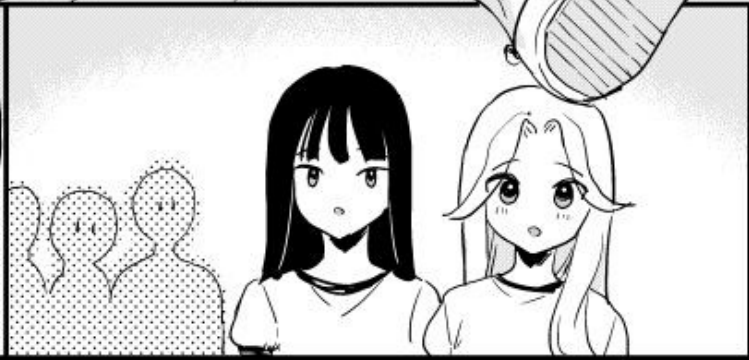
ほっ



エイダちゃん
ちよつと...

ニヤ

?







そう
それは良かった

キミに似合っ
てるからかな

ももも
ももも



小枝くんは
なぜ体操服の
ままがいいの？

す...ま...ま

はっ
るっ
♡



んむ...っ
画面...
見えない...

エイダちゃん...

やっぱり僕は
キミを独り占め
したい...

チュッ
チュッ
チュッ

ももも
ももも

むわ...



動画の真似
してるだけ
なんだろうけど

あ、あ

あ、あ

エイダちゃん自ら
自分の気持ち
いいように
動いてるみたいで

あ、あ

あ、あ

あ、あ

めっちゃくちゃ
エロク...

ニヤニヤ

ニヤニヤ

ニヤニヤ

あ、あ
あ、あ
あ、あ

小枝くんと...
『気持ちのいいこと』
してる...♡

『いく』状態に
なるまで
性器を擦り
合ってる...♡

エイダちゃん
今自分が
何してるか
わかってる？





エ…
エイダちゃん…

もっと
気持ちよく
になりたい…♡

このまま
動画の真似
続けてもいい…？

はぁ…
はぁ…っ

待って…
抜かないで…

びびるっ♡



んがら

たがら

そんなにいやらしく
お尻擦り付けて…

奥気持ちいいの？

うん…
気持ちいい…♡



んがら

んがら

んがら

んがら

んがら



たがら

無自覚な腰振りに
またイカされそうだ…

たがら

たがら

あ♡

はあ♡

たがら





恥ずかしいって
いう感情は
悪いものじゃないよ
人間 誰しも持ってる
ものなんだ
つまり
エイダちゃんが
成長した証拠だよ…



恥じらいを
覚えた彼女は
今までで一番
感じているようで

その後も何度も
イキまくっていた



でも僕は
そんなことは
どうでもよかった

エイダちゃんに
嫌だと言われて
すごく腹が立って…

…結局
僕もみんなと同じ
だったと気がついた

誰にも言うなって
約束も守りそう
だし

今日も放課後
オナホにしよう

彼女を自分と
同等の存在だと
思っただけじゃ
なかったし

これで
エイダちゃん
クラスにも
馴染んで…

ありのままの
彼女なんて求めて
なかった

僕の欲望通りに
動いてくれる

人形みたいなキミが
好きだったんだ



エイダちゃん…っ
乱暴にして
ごめんね…

でもやっぱり
嫌じゃないでしょ？
僕とセックスするの

エイダちゃん
気持ちいいこと
大好きだもんね？



恥ずかしいのは…

いや……

……



ね？
僕のこと嫌じゃ
ないよねっ？
キミなら
受け入れて
くれるよね!?

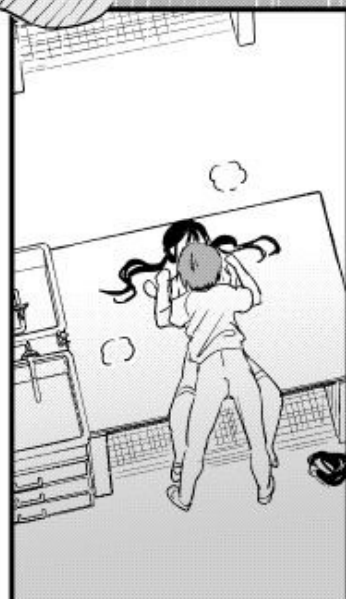


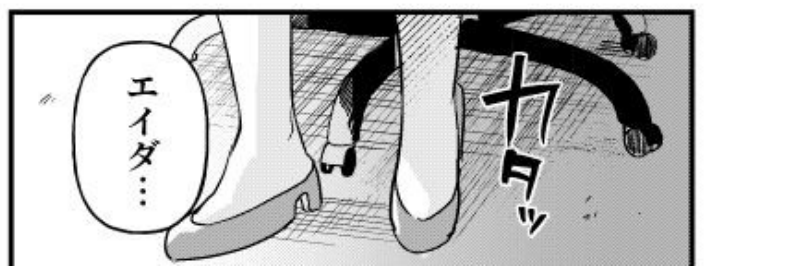
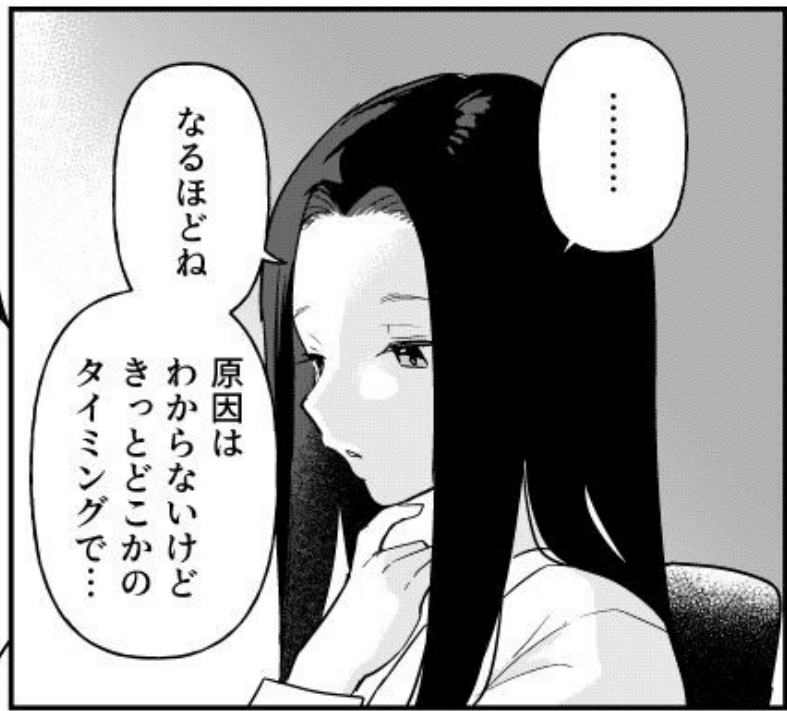
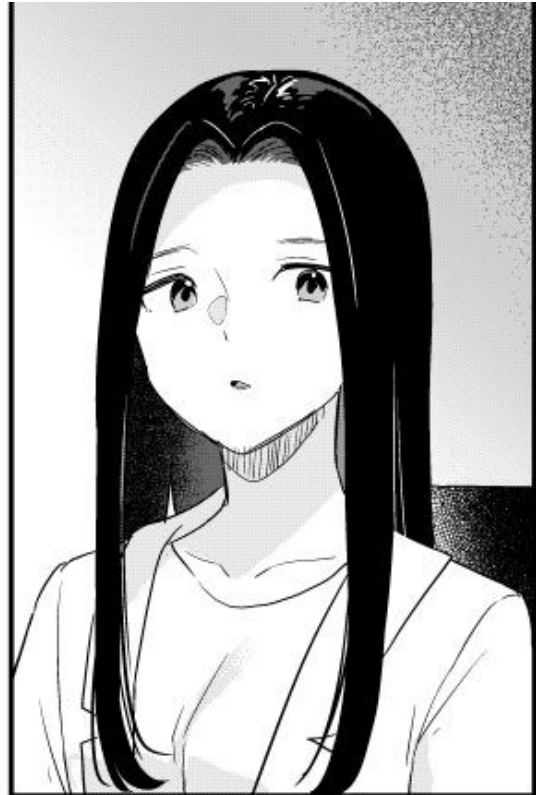
僕はそれ以上
彼女の言葉を
聞きたくなくて

それを
かき消すように
口を犯しながら…

中出し
してやった







あつ
エイダちゃん！

…ああ
あなたが
イブちゃんね

初めまして
あなたの言う通り
私がエイダ

学校途中まで
一緒に行こう？

おはよう

もらった
データによると
あなた充電切れで
倒れたことが
あるんだって？

基礎的な
プログラムの
部分に問題が
あるのかもね

何故黙っているの？
どうかした？

ううん
これからよろしくね
エイダちゃん！





Doll
Ignorant artificial maidens